

# 岡崎市 6 次産業化推進戦略

令和元年 7 月

岡崎市 6 次産業化・地産地消推進協議会

## 目 次

### 第1章 6次産業化推進戦略の策定にあたって

- 1 6次産業化推進戦略の策定の目的
- 2 戦略の計画期間

### 第2章 岡崎市の概要及び岡崎市の農林水産業の現状と課題

- 1 岡崎市の概要
- 2 市内の農林水産業及び6次産業についての現状と課題

### 第3章 6次産業化の取組方針

- 1 現状と課題を踏まえた6次産業化の取組方針
- 2 今後の6次産業化推進の成果目標
- 3 地域の特性を生かした商品開発等の方向性
- 4 育成を図る6次産業化事業体の将来像
- 5 6次産業化に取り組む農林漁業者を支援するための施策

## 第1章 6次産業化推進戦略の策定にあたって

### 1 6次産業化推進戦略の策定の目的

現在、日本の農林水産業を取り巻く環境は大変厳しく、従事者の高齢化、後継者・担い手不足、耕作放棄地の増加、鳥獣害被害の増加、価格の低迷や異常気象など、さまざまな問題があり、今後一層厳しさを増すことが予想される。岡崎市（以下、「本市」という）の農林水産業においても同様である。

このような問題に対処するため、6次産業化やブランド化などにより、本市で生産される農林水産物に付加価値を与え、農林漁業者（以下「事業者」という）の所得向上が必要である。

本戦略は、本市の農林水産物の6次産業化を推進し、消費者ニーズを的確に捉えた商品開発、ブランド化、地産地消の推進、小売店等での農林水産物加工品の販売・販路の拡大等を図り、事業者の所得向上を推進することを目的とする。

### 2 戦略の計画期間

本戦略の計画期間は令和元年度から令和5年度までの5年間とする。

## 第2章 岡崎市の概要及び岡崎市の農林水産業の現状と課題

### 1 岡崎市の概要

本市は、愛知県のほぼ中央に位置し、東部は新城市、西部は安城市・西尾市、南部は蒲郡市・幸田町・豊川市、北部は豊田市に接している。本市は平成18年1月に額田町と合併し、面積は387.24k m<sup>2</sup>で、県内では豊田市、新城市に次いで3番目に広い面積を有している。

気候は、典型的な太平洋岸式気候で、夏は高温多湿で雨が多く、冬は季節風が吹き乾燥しやすく、降雪はほとんど見られず、一般に四季を通じて恵まれた気象条件といえる。

人口は令和元年5月末現在で388,174人。本市は平成元年に人口300,000人に達し、その後も現在まで安定した増加傾向にあり、全国的には人口減少と少子高齢化の進展により、人口増加は徐々に抑制されることが考えられるが、本市は今後も周辺市町村などからの人口流入が続くと予想され、令和7年には総人口は400,000人と推計されている。

## 2 市内の農林水産業及び6次産業についての現状と課題

### (1) 現状

本市の農業は、都市近郊型農業で、水稻を主体に、なすやいちごの施設園芸や、ぶどうなどの果樹、花き、畜産など平坦地から山間地までバランス良く農業が展開されている。特に平坦地域では、ほ場の大規模化により担い手への利用集積が進み、水稻・小麦・大豆のブロックローテーションが確立している。

おかざき農遊館・ふれあいドーム岡崎・道の駅藤川宿といった産直施設を設置し地産地消を推進している。しかし、本市の農家数は減少の一途であり、農林業センサスによると、平成2年に3,649戸あった農家が、25年後の平成27年には1,518戸（約58.4%減）と半数以下になっている。急速な高齢化、後継者不足や農産物の価格低迷が続き、農家世帯の後継者が他産業へと流出しており、今後はさらに減少傾向が進むと予想される。

また、経営耕地面積についても急激な人口・産業（工場等）の流入により都市的利用に転用や遊休農地の増加により、農林業センサスによると平成2年には、3,219haあった経営耕地面積が、平成27年には2,137ha（約33.6%減）となっており、今後も減少傾向にあると予想される。

林業は、平成18年1月に合併した額田地域で古くから盛んに行われてきた。本市の森林は市域の約60%を占め、大部分が額田地域であり、さらにその約60%が木材として利用されるスギやヒノキの人工林で形成されている。現在、人工林の約70%が森林資源として成熟段階にあるが、木材価格の低迷や後継者不足等を理由に林業は衰退の傾向にある。また、森林所有者の高齢化や世代交代、市外在住の森林所有者の増加等により、林地境界の確定が困難な森林が増加していることも林業の衰退の一因となっている。

本市の「六次産業化・地産地消法」に基づく総合化事業計画の認定件数は、全国2,378件（平成30年10月31日現在）の内、認定件数は3件にとどまっている。また、本市の6次産業化の取組については、平成27年から単市補助制度「岡崎市農林水産物ブランド化・6次産業化支援事業費補助金」を開始し、この事業の支援を受け、かき氷やソフトクリーム等といった新たな商品を開発することができているが、新たに取組もうとする事業者の数は、頭打ち傾向にある。

岡崎市の6次産業化商品（抜粋）



岡崎駒立産  
ぶどうジュース



わ紅茶



むらさき麦  
関連商品



純米酢



いちごのかき氷



いちごの  
ソフトクリーム

## (2) 課題

本市の農林水産業が抱える課題としては、従事者の高齢化、後継者・担い手不足、耕作放棄地の増加、鳥獣害被害の増加、不明確な林地境界、価格の低迷が挙げられる。

また、6次産業化については、農林水産物の生産で手一杯で加工にまわす人手を確保することが困難であり、取組意欲がない事業者も多い。実際に6次産業化を実施している事業者は、商品ができては販売の確立が困難なこと、販売ターゲットが絞れていないことや、小ロット生産なので商品価格が高い等の問題があり、うまく一般市民にPR・販売ができていない等が課題と考えられる。

### 第3章 6次産業化の取組方針

#### 1 現状と課題を踏まえた6次産業化の取組方針

##### (1) 岡崎市6次産業化・地産地消推進協議会の設置

本市における6次産業化・地産地消を推進するため、岡崎市6次産業化・地産地消推進協議会を設置。協議会のネットワークを活用し、6次産業化に取り組む事業者を支援していく。

##### 岡崎市6次産業化・地産地消推進協議会

- ・ あいち三河農業協同組合
- ・ 岡崎市施設野菜振興会
- ・ 岡崎市花き温室園芸組合
- ・ 岡崎市果樹振興会
- ・ 岡崎市養豚振興協議会
- ・ 岡崎市酪農組合
- ・ J Aあいち三河青年部
- ・ 岡崎市農業経営士会
- ・ 常南自然じょ生産組合
- ・ 岡崎市肉牛生産組合
- ・ 葵地区代表生産組合
- ・ 矢作地区代表生産組合
- ・ 西三河農村生活アドバイザー
- ・ 岡崎市経済振興部商工労政課
- ・ 岡崎市経済振興部森林課
- ・ 岡崎市農業委員会
- ・ J Aあいち三河岡崎市いちご部会
- ・ 岡崎市植木生産協議会
- ・ 岡崎市駒立千両組合
- ・ 岡崎市養鶏振興会
- ・ 岡崎市4 Hクラブ会
- ・ J Aあいち三河女性部
- ・ 岡崎養蜂組合
- ・ 大門メ縄協同組合
- ・ 東部地区代表生産組合
- ・ 六ッ美地区代表生産組合
- ・ 額田地区代表生産組合
- ・ 岡崎森林組合
- ・ 岡崎市経済振興部農務課
- ・ 岡崎市農業支援センター

##### (2) 岡崎ビジネスサポートセンターOK a - B i z の活用

本市では、中小企業や事業者の販路拡大などの諸課題を解決するため、岡崎商工会議所と共同で「岡崎ビジネスサポートセンターOK a - B i z (以下「OK a - B i z」という)」を設置している。商品の開発～販売まで様々なアドバイスを受けることができるため、事業者にはOK a - B i zを積極的に活用することで、現状の課題から今後の課題について、相談することができるサポート体制を構築する。

### (3) 愛知県6次産業化サポートセンターの活用

愛知県には、6次産業化に取り組む事業者のさまざまな課題に対応するため、「愛知県6次産業化サポートセンター」が設置されている。このサポートセンターには、専門知識を有する6次産業化プランナーが配置されており、総合化事業計画の作成に向けた支援、食料産業・6次産業化交付金の活用に向けたサポート、認定後の事業実施のフォローアップや専門的アドバイスを行う等のサポート体制が整備されている。

本市で6次産業化に取り組もうとする事業者に対しては、愛知県6次産業化サポートセンターの積極的な活用を推進する。

### (4) 人材の育成

事業者の6次産業化についてのサポート体制を整え必要に応じてOK a - Bizや愛知県6次産業化サポートセンターと連携し、新商品開発、加工技術、商品価値のPR方法等について助言を行う。また、認定農業者を中心に、6次産業化に係る制度や支援体制等について周知するとともに、6次産業化への取組意向のある事業者を発掘する。

### (5) 岡崎市農林水産物ブランド化・6次産業化支援事業費補助金の活用

岡崎市農林水産物ブランド化・6次産業化支援事業費補助金は、農林漁業者等自らが、生産又は採取した農林水産物を加工・販売を行うことに支出する経費の一部を支援することにより、地域に根ざした農林水産物加工品等を創出し、本市農業の活性化を図ることを目的に、平成27年度から制度を開始している。

当補助事業を活用することで、更なる新商品の開発及び販路拡大への取組を推進する。

### (6) 食料産業・6次産業化交付金の活用

国の「食料産業・6次産業化交付金」は、農山漁村にある農林水産物を始めとする優れた地域資源について、1次産業の担い手である農林漁業者等が、2次及び3次産業の担い手である流通業者、食品事業者等と連携しながら、その価値を高め、消費者や実需者等に提供する6次産業化、農商工連携又は地産地消の取組、地域資源の魅力の再発見に資する食育活動の取組等を支援するものであり、農林漁業者等の所得の拡大、農山漁村を活性化するとともに、我が国経済の健全な発展と国民生活の安定向上にも貢献するものである。

愛知県6次産業化サポートセンターの活用と共に、食料産業・6次産業化交付金の活用を推進する。

### (7) ふるさと納税の返礼品への展開

本市では、ふるさと納税の返礼品として、100種類以上を取り揃えている。

中でも人気が高かったのはいちごであり、他にも新鮮野菜やお米等、農林水産物や加工品は合計50種類以上の登録があるが、今後さらに、6次産業化の新商品等を登録することで、販路拡大につなげる。

### (8) イベントへの参加促進

市内外のイベントを活用し、農林水産物加工品の販売やPR活動を行うことで、生産者と消費者の顔が見える関係の構築を支援する。また、市内外のイベントにて「6次産業化PRブース」を設け、幅広い世代へ向けて農産物加工品のPR・販売を行う。

### (9) 農山漁村振興交付金（山村活性化対策）の活用

事業主体となる「岡崎市ぬかたブランド協議会」に対し、負担金を交付し支援することで、以下の対象事業を実施し、額田地域の活性化を図る。

- ①地域資源の賦存状況・利用形態等の調査
- ②地域資源を活用するための合意形成、組織づくり、人材育成
- ③地域資源の消費拡大や販売促進、付加価値向上等を図る取組

### (10) 林業6次産業化を通じての木材利用の推進

本市では林業6次産業化に係る地域再生計画「市街地隣接林業地の地理的優位性を活かした林業6次産業化の推進」を定めており、本計画を推進することにより、木材利用の促進及び木材の6次産業化を図る。

## 2 今後の6次産業化推進の成果目標

目標内容	現状（平成30年度）	目標（令和5年度）
食料産業・6次産業化交付金の活用	無し	増加
総合化事業化計画の認定数	3人	増加
市内農林漁業者の収入の向上	860万円(平均)	1,060万円(平均)
各種イベント・フェア、ゆかりのまちでの販売促進	22回	増加
新商品の開発及び販路拡大への取組	10件	増加

## 3 地域の特性を生かした商品開発等の方向性

本市では「岡崎市農林産物ブランド化推進品目」を定めており、市内で生産された農林水産物の品質の向上や市場や消費者から信頼される商品となること等、農林水産業の活性化を図っている。その推進品目について、積極的に6次産業化商品の開発を推進し、岡崎市を代表する新商品が生まれるよう支援していく。

## 岡崎市農林産物ブランド化推進品目一覧

### ・産地ブランド推進品目

いちご	なす	きゅうり	ほうれん草
自然薯	ねぎ	柿	ぶどう
くり	いちじく	米	麦
大豆	お茶	わさび	きのこ
山菜	木材	植木	千両
切花	鉢物	しめ縄	牛肉
牛乳	豚肉	鶏卵	鶏肉
蜂蜜			

### ・地域ブランド推進品目

藤川宿むらさき麦 (藤川まちづくり協議会)
大門のしめ縄 (大門メ縄協同組合)
法性寺ねぎ (法性寺ねぎ研究会)

## 4 育成を図る6次産業化事業体の将来像

本市の農林水産物のブランド化が確立し、価格の向上、産地の振興が図られることにより、6次産業化に取り組む事業者の所得向上につなげるだけでなく、本市の農林水産物及びその加工品の知名度を高め、観光産業都市・岡崎の創造に向けた新たな食の魅力づくりの一翼を担う資源となることを目指す。

## 5 6次産業化に取り組む農林水産業者を支援するための施策

事業者の事業内容に合わせ、愛知県と連携しながら、以下の施策等を活用し、6次産業化に取り組む事業者を支援する。

- ・食料産業・6次産業化交付金（国・愛知県）
- ・岡崎市農林水産物ブランド化・6次産業化支援事業費補助金（岡崎市）
- ・岡崎ビジネスサポートセンターOK a - B i z（岡崎市・商工会議所）
- ・愛知県6次産業化サポートセンター（愛知県）
- ・岡崎市6次産業化・地産地消推進協議会（岡崎市）